

高取城跡史跡内の整備について

【担当省庁】文化庁、林野庁

高取町における取組

（高取城跡について）

国指定史跡である「高取城跡」は、麓からの比高が近世城郭の中で一番高いことから、日本三大山城の一つとして、さらに奈良県唯一の日本百名城である奈良県中和地域における観光スポットであり、高取町の観光振興の拠点である。さらに、『日本美しの森 お薦め国有林』にも選定されている。

近年のお城ブームやアウトドアツーリズムの高まりから、年間を通じてハイキングやトレイルコースとして登城者が増加している。（H31:9千人→R1:40千人）

また、城跡から奈良盆地の夜景を満喫していただくナイトツアーを開催し、麓の土佐街道で毎年開催される「城まつり」のイベントにも関わる観光客誘客に欠かせない町のシンボルとなっている。



高取城本丸石垣



高取城跡ナイトツアーでの国見櫓からの夜景

●現状

高取城跡全体の石垣の劣化・破損が進むとともに、放置された樹木が、巨木化して、眺望を妨げているのみならず、隣接した石垣への倒木や根の侵食による石垣の破壊を招き、登城者への安全が懸念される。これらの課題に対応するため、奈良県により「史跡高取城跡保存活用計画」が策定[令和4年7月 文化庁認定]され、令和3年度より、奈良県により、計画的に石垣の現況調査、保存整備（石垣復旧、登山道・遊歩道整備、案内サイン設置）を実施中である。

また、林野庁奈良森林管理事務所により、支障木の伐採（小規模）、案内看板の設置をされている。

高取町は、城跡の見回りや草刈りを実施するとともに、令和3年度には、城跡二の丸跡にバイオトイレを設置。令和6年度にはライブカメラを設置し、快適な登城を進めている。

●課題

今後、石垣、登城路の適切な復旧や支障木の伐採等による高取城跡の保存整備には、多額の経費が必要となる。

快適な登城のために、駐車場の整備等、アクセス環境の充実が望まれる。

また、城内の伐採木の搬出手段が、現状ではヘリコプターしかなく、多大な費用を要することから、従前より伐採木が敷地内に放置されている状態が続いており、それらの搬出及びバイオトイレの維持管理のための物資運搬などに活用できるモノレールの導入が必要と考えられる。

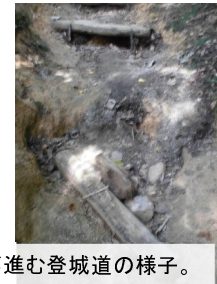
登城道には既に石垣が崩落した箇所もあります。



盆地を臨む眺望を樹木が阻害している様子。



風雨による崩壊が進む登城道の様子。



【高取町設置】城跡に設置されたバイオトイレ

国にお願いすること

【文化庁】

保存整備にあたり、国の継続的な予算措置（国庫補助金「歴史活き活き 史跡等総合活用整備事業補助金」）をお願いする。

また、多くの来訪者が、安全で快適に訪れることができるよう、早急な整備が必要な登城道の復旧や案内サインの設置を速やかに実施するための国からの支援をあわせてお願いする。

奈良県執行（国1/2 県1/2）

令和4年度 11,256千円 石垣調査、登城道復旧設計

令和5年度 4,524千円 石垣調査

令和6年度 8,002千円 石垣調査取りまとめ

令和7年度 7,500千円 整備基本計画の策定

令和8年度 40,000千円 石垣整備設計、登城道整備工事（要望）

【林野庁】

高取城跡の景観促進及び遺構保護のための国有林野内の伐木には搬出も含めて多大な費用を要します。これについても継続的な予算措置をお願いすると共に、登城者の安全配慮及び利便性向上の観点から、これまで実施してきた景観支障木の伐木の有効活用及び案内看板の設置をお願いする。